

AIを、ここで。

クラウドに送らない。 院内から出さない。

院内で動くAI。ふだんの利用にインターネットはいりません。

機器の準備から設定まで、KOKODEが導入します。

医療機関向けご紹介資料

AIに任せたい仕事ほど、 患者情報が入っている。

紹介状、退院サマリー、経過のまとめ。手間のかかる文書ほど、患者さんの情報なしには書けません。

個人情報保護委員会も、生成AIサービスに個人情報を入力する際の注意を呼びかけています。

出典：[個人情報保護委員会「生成AIサービスの利用に関する注意喚起等について」](#)（2023年6月2日）

課題：医療の画像

医療に必要な画像が、 つくれないことがある。

解剖図や手術の説明図。医療では欠かせない画像でも、一般向けのAIサービスでは、利用ルールによって生成が制限される場合があります。

ほしいのは

ChatGPTのように自然に。 でも、院内の管理下で。

頼めば、すぐに返ってくる。文書の下書きも、説明用の図も。その手軽さを、患者データを外に出さずに。

KOKODE

院内で動く、 施設専用のAI。

KOKODEは、院内に置いた機器の上でAIを動かします。患者データを扱う作業は院内で。
ふだんの利用にインターネットはいりません。

※通常運用では患者データを外部LLMへ送信しない構成

データの行き先

患者データは、 院内のAIへ。

※通常運用では患者データを外部LLMへ送信しない構成

これまで

患者データ



クラウドのAI



不安・制限

KOKODE

院内

患者データ



KOKODE



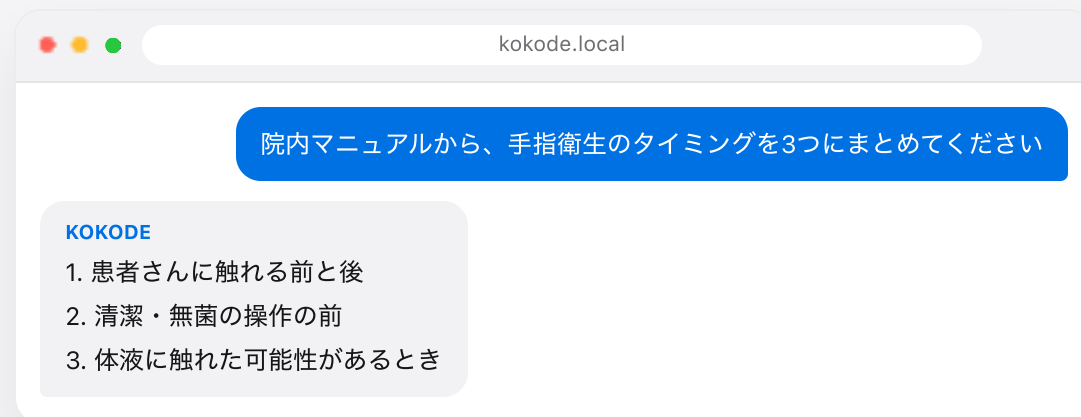
院内のAI

患者データの行き先：これまでのクラウドのAIと、KOKODE

使い方

ブラウザを開けば、いつものように。

スタッフ用ネットワークにつながったPCやタブレットで、ブラウザから kokode.local を開き、ログインするだけ。ChatGPTと同じように、チャットで頼めます。サーバーの前に座る必要はありません。



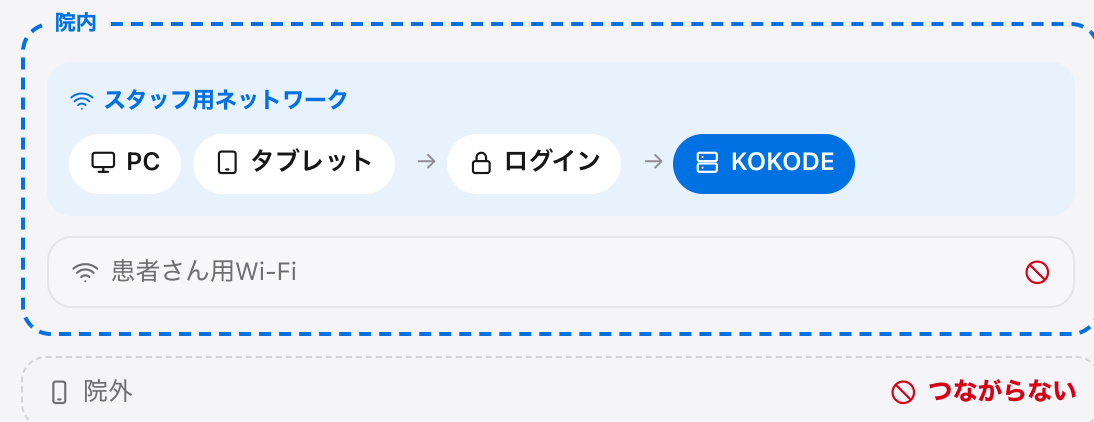
スタッフのPCで開いたKOKODEのチャット画面

※画面はイメージです

つながる範囲

院内のネットワークだけで使えるAI。

使えるのは、許可された院内ネットワーク（有線LAN・スタッフ用Wi-Fi）につながり、ログインした端末だけ。院外からはつながりません。患者さん用のWi-Fiとも分けて設定します。



許可された院内ネットワークにつながり、ログインした端末だけが利用

活用例：紹介状

経過の要約を、 院内で下書き。

カルテの経過から、紹介状に使う要約の下書きをつくります。確認と仕上げは、先生の手で。

※診断そのものではなく、情報の検索・要約・文書作成・研究支援から導入できます。最終確認と判断は医療従事者が行います。

kokode.local

経過記録
72歳 女性
右大腿骨頸部骨折で入院
人工骨頭置換術後 14日目
既往歴：高血圧・2型糖尿病

この患者の経過を、紹介状用に要約してください

紹介状用 経過要約（下書き）
右大腿骨頸部骨折に対し、人工骨頭置換術を施行。
術後経過は良好で、歩行器での歩行訓練を継続中。
高血圧・2型糖尿病は内服を継続。

架空の患者の経過から、紹介状用の要約を下書きする例

※架空の患者データです

※画面はイメージです

※AIの出力は下書きです。内容の確認と最終的な判断は、医療従事者が行ってください。

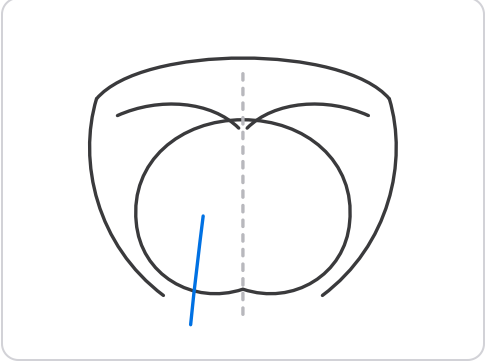
活用例：説明用の図

発表資料の図も、 院内で下書き。

「殿部の解剖図を」と頼めば、線画の下書きをつくり、発表用のスライドに整えます。

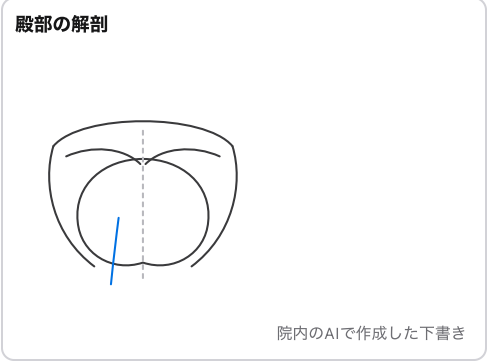
kokode.local

発表資料用に、殿部の解剖図を作成してください



線画をつくる

→



院内のAIで作成した下書き

スライドに整える

線画の下書きをつくり、発表スライドに整える例

※画面はイメージです

※AIの出力は下書きです。内容の確認と最終的な判断は、医療従事者が行ってください。

KOKODE

08 / 14

まとめて導入

導入はKOKODE、 使うのは院内のチーム。

機器、AIモデル、院内の知識、業務に合わせたエージェント、チャット画面。ログインとバックアップの設定まで、KOKODEが整えて引き渡します。

引き渡し後、院内のチームは技術作業をせずに使えます。更新と運用のご相談もKOKODEが担当します。

チャット画面

スタッフがブラウザで使う

エージェント

業務に合わせた手順

院内の知識

文書・対話・業務の手順

AIモデル

院内の機器で動かす

ハードウェア

院内に置く機器



KOKODEがまとめて導入するもの

施設の資産

院内に積み重ねたものは、 施設のもの。

文書、対話、業務の手順、設定は院内に残り、施設の資産になります。

AIモデルは交換できる部品。モデルを替えても、積み重ねた知識は施設に残ります。

更新とバックアップ

更新も、バックアップも、 施設の管理下で。

更新データはUSBなどで院内へ持ち込めます。インターネットにつなぐ必要はありません。

バックアップは施設が管理する保存先へ。KOKODEのクラウドには送りません。

はじめ方

まずは1台、 1つの業務から。

GPUラックは、最初から要りません。小さな機器1台で、1つの業務を試すところから始められます。

規模が大きくなったときは、機器の構成も施設に合わせてご相談いただけます。機器が大きくなっても、使い方は同じです。

PoC

30万円～

パイロット（導入検証）の参考価格です。内容に応じて個別にお見積りします。

※機器の外観や構成はイメージです



小規模なクリニック

まずはここから

中規模の施設

個別にご相談

病院・研究機関

個別にご相談

施設の規模に合わせた機器のイメージ

パイロット

1つの業務で、 院内で試す。

① 業務を1つ選ぶ

クラウドには出せないけれど、AIに任せたい業務を1つ。紹介状の作成、院内文書の検索、説明資料づくり、音声からの文書化などから選べます。

② 院内に1台置く

機器の準備から設定まで、KOKODEが行います。

③ 実際に使ってみる

スタッフがブラウザから使い、効果と一緒に確かめます。

ご相談

クラウドには出せないけれど AIに任せたい業務を、 1つお持ちください。

試したい業務をお知らせください。パイロットの進め方をご案内します。

※KOKODEは医療従事者による判断を代替するものではありません。

試したい業務を相談する